一誌一句（受贈誌４・５月号他より）

米田　透　抄出

特大の妻のおむすび山笑ふ　（湧　）　甲斐　遊糸

自粛なきお玉杓子の交差点　（軸　）　秋尾　　敏

戦ひを終へしネクタイおでん酒　（蛮　）　鹿又　英一

詠み人は人工知能猫の恋　（槐　）　髙橋　将夫

家を出て決める行先春の風　（玉　梓）　名村早智子

水に放つ真青の若布十年経ぬ　（阿夫利嶺）　山本つぼみ

コロナ禍の国から国へ鳥帰る　（山　彦）　河村　正浩

新茶汲むおーいと呼べど妻の来ず　（春　耕）　蟇目　良雨

さざなみは風のため息薄氷　（爽　樹）　河瀬　俊彦

花菜風島影かすめ頬掠め　（草　炎）　久行　保徳